



# 若者国際連合-13

～地球第一主義～

m o r i 3 5 8 0

最近北朝鮮がおとなしいと思ったら、南朝鮮・韓国に接近し、一緒にオリンピックに出たいという。実際に、五輪の開会式に出席し、金正恩労働党委員長の実妹を特使として派遣し、韓国大統領と会談を行ったと伝えられた。この報道に対し、「米国と韓国の離反を意図したもの」「五輪を利用した新たな微笑み外交」という評価もあったが、私はそうは思わない。オリンピックの時期だけでなくできればそのあとも、平和であってほしいと願っている。

北朝鮮がこの期間だけは少なくともミサイル発射はせず、一方で妹を特使として派遣しながらミサイル発射では、あまりにも国際社会をなめていると自制したのかもしれない。しかしミサイルは発射しなかったのも事実である。この辺に話し合いのヒントがあるのかもしれない。これに対し、アメリカの大統領は「常に発射ボタンは手元にある」と和戦両様の構えである。発射ボタンは手元にあると言いながら押さなかったことも事実である。こうして時間は過ぎてゆく。これでもいいのではないかと最近思うようになってきた。発射ボタンを一度押せばどういうことになるか、人類全滅になることは皆知っている、人類だけではなく全動植物の生命が危うい、とも言われている。

私は第二次世界大戦の米軍による「東京大空襲」で我が家と学校の校舎を焼かれた経験がある。それでも学年末試験をうけるために、焼け跡の中を気持ち悪くなりながら1時間ほど歩いて行ったことがある。一晩で10万人亡くなったと後で聞いた。広島・長崎から72年、今ではその後の開発研究により、北朝鮮の開発担当者は「核兵器の威力は何十倍になり今では1千万人殺せる」と豪語している。私は被害者であったが、目の前の惨劇を見たら精神的におかしくなり、気が狂ったと思った。発射ボタンを押す担当者およびその上司は必ず精神に異常をきたすと思う。まして自分が加害者である。自分が発射ボタンを押すことによって、一度に1千万人プラス動植物の生命が失われるとなれば、平常心ではいられないはずがない。気が狂うのである。

いずれにしろ、核は人類にとって制御不能である。核の平和利用として、核発電が行われているが、いまだにごみの捨て場所さえ確保できない始末である。人類は核に立ちいつてはいけないのである。核は第2の「バベルの塔」に違いない。バベルの塔とは聖書に出てくる神の領域である。

まえがき

第1章 北朝鮮のミサイル対策

- Q: このところ北朝鮮は静かだね...?
- Q: 頭の上を核兵器が通過するよりはね...?
- Q: 五輪が終わったらどうなるのかな...?
- Q: それでは核兵器は使えないということか...?
- Q: 核兵器が戦争の抑止力になっているという意見もあるが...?
- Q: 核の存在価値は...?
- Q: 「バベルの塔」とは...?
- Q: 核問題の本質は...?
- Q: 大気圏再突入の際の技術...?
- Q: 「微笑み外交」の評価は...?
- Q: いつ爆弾が落ちてくるのか、心配でならない人に一言?
- Q: あなたは東京大空襲の時に気持ちが悪くなったそうだが...?
- Q: 核爆弾の発射ボタンを押す人はいない...?
- Q: あなたの言うことを信ずれば、核兵器は使えないことになるが...?
- Q: 大気圏再突入の際の技術的解決は...?
- Q: 実戦で核兵器を使う人や国はない...?

第2章 アメリカはどう出るか

- Q: アメリカはどう出るか...?
- Q: 和戦両様の構えとっていいのでは...?
- Q: アメリカは落ち目という人もいるが...?
- Q: 核兵器の分野でも...?
- Q: ということは、「誰も核兵器をつかわない」ということか?
- Q: 人間はミスをする動物ともいわれるが...?
- Q: 判断ミスをしないために、日ごろの話し合いが必要ということか?
- Q: ミサイル攻撃を受けてしまったら...?
- Q: 核は人類にはコントロールできないということか?
- Q: 「米国第一」にこだわっていれば、口中が黙っていない...?
- Q: 北朝鮮が思いきった政策転換を発表したね?

Q：核兵器の威力に議論が集中しているが・・・？

Q：人間同士なら話し合いもできるが...？

### 第3章 死の文明から生の文明へ

Q：北朝鮮は韓国と統一したいのかはっきりしない...？

Q：どんな人が気づいているのか・・・？

Q：気づいていないのは政治家となるのか？

Q：そういう政治家はどうしたらいい？

Q：未来に希望を持って生きるには？

Q：39歳で大統領になったフランスのマクロン氏は選挙中「徴兵制度の復活」を公約にしていたと問題になっているが...？

Q：米朝首脳会談に望むことは...？

Q：「地球第一主義」の政治家は現れないか...？

## 第1章 北朝鮮ミサイル対策

---

Q：このところ北朝鮮が静かだね？

A：静かなのは結構。オリンピックの開会式に南朝鮮・韓国と合同のチームを派遣したいと言って、実妹を特使として韓国の大統領と会見させ、北へ招待したと伝えられた。それに対し、韓国の大統領は前向きな回答をしたと伝えられたが、一方では「米韓の離反を策している」「微笑み外交」という声もあったが、私はそうは思わない。その間核ミサイルが発射されることもないし、発射されたという事実もない。「微笑み外交」を続けるべきなのだ。その後の北朝鮮の態度も代わっているとは思えない。

Q:頭の上を核兵器が通過するよりもいいのではないか。

A:余計な心配をしなくて、世界中がホッとしたのではないのか？これが大事だと思う。

Q：五輪が終わったらどうなるのかな？

A:どうにもならないさ。核兵器による放射能は国境を越え、自分の国も安泰ではられないことが分かっているからさ。国境を越えるのは確かだが、日本海も越えるかもしれない。広島・長崎以来72年も実戦では使われていないから、その間の研究でどれだけ威力が増しているのか誰もわからない。

北朝鮮の開発研究者は「1千万人は殺せる、焦土にする」と豪語しているが、実際にやってみなければ分からないというのが本当のところではないか。実際に核爆弾を発射し1千万人殺せば、戦争になることは分かっているからそれはできない。距離的には、大陸間ミサイルの技術を使えば、アメリカ本土攻撃もできるが、それをやれば戦争になるからできない。戦争になれば国力の差がものをいうことになり、敗戦の憂き目を見ることになるかもしれない・・・。このように考えて自重したのかもしれない。

Q:それでは核兵器は使えないということか？

A：核兵器は20世紀までの武器であって、今は使えない。人類全滅の危険を冒しながら、使う人はまずいないと言っていいのではないか。北朝鮮は現在の体制を維持したいだけなので、実戦で使うことはまずないのではないか。また実戦につながる危険も冒さないというのが大方の観測である。

Q:核兵器は戦争の抑止力になっているという意見もあるが・・・？

A:まず第一に、人類を全滅させるほどの質量がある、そして第二に、すでに十分に拡散している、第三に、72年間も実戦で使われていない、第四に、、人道に反すると思っ  
ている人が多い、第五に、禁止条約に加盟している国が多いなど、核兵器なしでもいいと  
いう人、ない方が良くという人も増えている。核兵器を持っているからと言って、大国  
とは言えないし、財政負担にも限りがある。世界一裕福な国と思われているアメリカで  
さえ財政負担に耐えられなくなり「米国第一主義」を唱える人が大統領になっている。  
核兵器が戦争の抑止力になっていたのは20世紀までである。

Q:核兵器が戦争の抑止力にならないとすれば、核の存在価値は？

A:核は戦争でも平和でも人類には無縁の存在、人間にはコントロールできない第二の「  
バベルの塔」といえる。

Q:「バベルの塔」とは・・・？

A:昔人間が塔を作る技術を使って神の領域まで届く塔を創ろうとしたが、神の怒りにふ  
れ言葉が通じなくなったという。コミュニケーションの手段を失った人間はあきらめぎ  
るを得ないことになったという。聖書に出てくる有名な話で、多くの画家が取り上げて  
いる。

Q:核問題の本質は・・・？

A:東西冷戦華やかな頃、アメリカとソ連はどちらが先に月に到達できるか競っていた。  
「人間が月に立った」と我々は興奮するだけだったが、その時宇宙時代にふさわしいル  
ールを話し合えばよかった、と今は思う。当時、宇宙に出るのはなんとかなったが、大  
気圏に再突入する際7千度と言われる高熱に耐える技術が無かった。技術レベルからい  
って百年かかると言われたことを思い出した。核兵器をつくっても、大気圏再突入の高  
温に耐える技術が無ければ宇宙からの攻撃はできない。

北朝鮮は核弾頭の小型化・軽量化によりその技術をクリアしたと発表したが、国際社  
会の専門家は疑問視している。この辺がポイントと言っていいたいだろう。できっこない  
と思っていたが、北朝鮮の執念がそれを克服したのかもしれない。距離的にはアメリカ

本土に届くことは分かったが、再突入の技術はこれからともいえる。

Q：大気圏再突入の技術的解決は現在どうなっているが、重要なポイントであることは分かった。解決されたのかどうかはどうしたらわかる？

A：一つには実際に発射してみるのだが、それは犠牲が大きすぎる。場合によっては人類全滅という大惨事になるかもしれない。それを避けるには、話し合いしかないのではないかと話し合っているうちに、信頼関係が少しずつ増してきたりして、お互いに専門家だから察することがあるかもしれない。

Q：「微笑み外交」にもどるのか？

A：微笑んでいるうちは発射しないだろうから「微笑み外交」も悪くないと思うよ。発射ボタンを実際に押されることを考えれば、微笑みができるだけ生きていて幸せかもしれない。核兵器は72年間使われなかったのだから「核兵器不使用100年」も真近かである。

Q：今のままでは、いつ核爆弾が落ちてくるのか、心配でたまらない、という人もいる。これらの人々になにか・・・？

A：そのご心配はわかるが、あなたも人類の一員である以上、人類の未来について、希望をもった方が良くと思う。人類は確かに進歩しているし、72年間も核爆弾は使われていないという実績がある。心配の人生を送るか、安心の人生を送るか、人それぞれ違うだろうが、安心で楽しい人生の方がいいだろう。安心の人生を送るために、あなたが何をしたらいいのか、真剣に考えることも大事だと思う。「人生 なるようになる」と言えば無責任かもしれないが、ラジオだけの時代からスマホの時代まで生きてきて、人類の進歩はすごいと思っている。人類の未来は明るいと思う。人類はバカではない。人類全滅につながるかもしれない核兵器の使用はまずないと考えるほうが普通ではないのか？

Q:あなたは東京大空襲のときに気持ちが悪くなったと聞いたが・・・？

A:学校が焼かれ、家が焼かれる中で、中学1年生の最後の試験が待っていたので東京の代々木の自宅から芝公園の学校まで約1時間歩いて行ったが、途中死人があちこちに

横たわっており、焦土の中を歩いているうちに私は気持ち悪くなり精神的におかしくなつたと感じていた。後で聞くと一晩で10万人の命が失われたそうだ。北朝鮮の言う通り、現在は1000万人殺すだけの威力があるとすれば、その100倍もの人間の命がその人の発射ボタンを押すことで失われるとなれば、その担当者だけでなく命令した上司もそのまた上司も精神に異常をきたすことになるだろうと感じている。そんな中、人類全滅の危険を冒す人はまずいない。自分の神経や生命に危険が及ぶかもしれない状況の中で、核兵器の発射ボタンを押す人はいないということになると、実戦で核兵器を使う人や国はないと言い切れるのではないか。

Q:そうすると、核兵器は使えないとなるが...?

A:そんな時代ではないということだろう。ただ人間はミスをする動物と言われる、判断ミスをしないとは言い切れない。過去の開戦の原因を調べてみても、最初はどうでもいい、つまらない局部戦だが、世界を二分する世界大戦に発展することもあった。これがこわい、と思う。

Q:結局、核兵器の問題は、大気圏再突入の際の高温対策が技術的に解決できるかどうか、にかかっているととってもよいのではないか...?

A:北朝鮮は小型化によりクリアしたと言っているが、他国の技術者の多くはそれを認めていない。北朝鮮の時間稼ぎという説も有力である...? 私は「技術的に解決するのは今世紀は無理」という時代に育ったので、何とも言えない。だからこそ、まず話し合ってみることを勧めている。話し合いの中で「宇宙ルール」を作る機運が盛り上がるかもしれない。それには「米国第一主義」や「ロシア第一主義」、「中国第一主義」、それぞれの国益というエゴをぶつけ合うのではなく、「地球第一主義」の政治家を育成することから始めなければならない。

Q:アメリカはどう出るだろうか?

A:それを次の章で取り上げたいと思っている。アメリカ国民は選挙で大統領を選べることになっているが、「地球第一主義」の政治家を選ぶことができるかどうかにかかっていると思う。





## 第2章 アメリカはどう出るか？

---

Q：アメリカはどう出るだろうか？

A：それは分からない。北朝鮮が微笑み外交路線をとったとしても、相手のあることから、アメリカの出方次第となり、トランプ大統領がどう出るかは分からない。

Q：和戦両様の構えと言っても良いのではないか？

A：強気のトランプ氏だが、イスラエルの首都問題で、相当国際社会とくにアラブ系の諸国から反対されているので、どうなるかは分からない。トランプ氏の支持勢力がどう感じるかにかかっていると思っている。

Q：アメリカは落ち目だと言われるが...？

A：アメリカは落ち目だと言われるが、それをアメリカ国民がどう感じているのか、いないのか。確かにアメリカの軍事力・経済力は抜群だったが、それがどう変化していると思うのか、「米国第一主義」を推進するという公約を掲げる人を大統領に選ぶ国民だから、アメリカの威信は地に落ちたと言っても良いのではないか。ロシア・中国をはじめ対抗勢力の台頭は著しいといえる。地球は変わったのである。

Q：アメリカが重しになって、世界の均衡が保たれてきたが、核兵器についても同じでいいのか？

A：核兵器については、北朝鮮のような国もある。大気圏再突入の際の技術問題を解決すれば、ピンポイント攻撃も可能になり、小国が大国と闘うことができると考える国も出てくる。「人間が月に立った」と喜んでいるだけでなく、宇宙時代にふさわしいルール創りをやるべきであった、と私は今は思っている。宇宙時代にふさわしいルール創りのための話し合いを始めても良いのではないか。

Q:核問題ばかりが話題の中心になっているが...？

A:当然だろう。頭上から核爆弾が降ってくる、この恐怖以上の恐怖はないといえるのではないか。しかし核爆弾の発射ボタンを押すのも人間なら、押される恐怖におののくの

も人間だ、同じ人間同士話し合うこともできるはずだと考える人も出てくるだろう。核兵器は人類全滅の危険があり、それだけの威力もあると聞いた。北朝鮮の担当者が言ったように「一度に1千万人殺せる、焦土にできる」というのだから自分自身も危ないと考える方が正しいのではないか？危険を冒してまで核兵器を使う人はいない、と考える方が自然だろう。

Q:ということは「誰も核兵器は使わない」ということか...？

A:北朝鮮もアメリカも、核兵器を使わないということさ。核兵器を怖がることはない、ということともいえるが、人間はミスをする動物ともいわれる。核兵器の発射ボタンを押すミスを誰かが犯すかもしれない。判断ミスをしないように、難しい局面をできるだけ避ける配慮が求められるということだろう。話し合いの場でも、戦闘の場面でも、当事者にはそれだけの配慮が必要といえるだろう。過去の世界大戦の発端も、後から考えれば、当事者や国際世論がもう少し冷静になれば防げていたかもしれないという事例もあったと聞いた。判断ミスにならないために日ごろからかなり綿密に話し合っておく、事前の話し合いが必要だろう。

Q:「米国第一主義」のアメリカではなく、「地球第一主義」を掲げないと話し合いはまとまらないと思うが・・・？

A:その通り。アメリカが優位に立てる条件だけでは、宇宙時代のルール創りは難しいと思う。「地球第一主義」「人類第一主義」を掲げないと難しいのはその通り。もうすでに、「米国第一主義」は行き詰まっており、そのことをどれだけアメリカ有権者が感じているかが次の選挙で問われることになりそうだ。これからは「地球第一主義」の考え方を持った人が選ばれ、話し合いに出ることになる。

Q:北朝鮮のミサイル攻撃を受けてしまったら・・・？

A:そんなことは無いと思うが、アメリカは通常兵器で攻撃されても、核兵器を使うこともある、と伝えられた。それに小回りの利く核兵器の開発を指示したとも伝えられた。アメリカ本土を守るための方策も開発するよう指示されたという。

Q:ミサイルが発射されたら迎撃するというが、宇宙は広大で費用が掛かりすぎる。発射を確認してから、あとを追うというが間に合うだろうか？

A：そういう心配もある。同時に10発も発射されたらとても間に合わないだろう。迎撃で敵のミサイルを撃ち落としたとしても、核弾頭の放射能を宇宙空間にばらまくことになり、人類のためにはどちらがよいのかわからない。それに、まだ実戦で使われたことが無いのだから、効果のほどはわからない。効果が分からないものに予算を付けることが良いのかどうかという議論もある。

Q：核は人類にはコントロールできない、ということか？

A：私はそう思っているが、懸命に開発の努力をしている国もある。いろいろな意見がある。その中で核兵器を減らす努力を続けなければならないのが難しいところだ。核兵器の威力を上げることを競い始めたら、軍拡競争の再来である。軍拡競争は誰も幸せにはしない。人間はバカではない。そろそろ気づく時期である。宇宙時代にふさわしいルールづくりのための話し合いは「米国第一主義」に拘っていれば、口の中が黙ってはいない。

地球人のための「地球第一主義」を掲げないとまとまらないだろう。地球の国同士が争っていれば、地球以外の生物を喜ばせるだけだ。それでは人類は生き残れない。「地球第一主義」「人類第一主義」を唱える人が支持される世の中はもうすぐ来る。

Q:北朝鮮が思い切った転換を発表したね。

A：核兵器の開発と経済建設を目指すという、いわゆる「並進路線」から転換して、経済建設に集中するという。核兵器の開発は一段落といい、試験場も廃止するという。米朝首脳会談に相当な期待を持っていることは間違いないだろう。現在の北朝鮮の政治体制をアメリカが長期にわたって保証することが必要となるだろう。アメリカは民主主義の国だから、大統領が代わることも考えておかなければならない。アメリカの大統領が何党になっても、北朝鮮の政治体制は変わらないという保証を要求するだろう。さてどんな奇策が飛び出すか？

Q：「地球第一主義」という考え方はいいね...？

A：地球にある国同士が国益と言うエゴを主張すればまとまらないだろう。「地球第一主義」を唱える人を、どこの国の有権者も支持することが必要になる。まずあしもとの

日本はどうだろうか？

明治の頃の元勳は、みずからは藩に在籍しながら、日本と言うもう一ランク上の国全体の事を考えていたと思う。今でいえば、国益よりも地球全体の事を常に考えていたと言える。人類は進歩する。「人類全滅」よりは「話し合い」を選ぶ人は多くなるのではないか。アメリカ国民が、核兵器を中心とした軍事力が世界一であることを望むかどうか、にかかっているように思う。戦争と破壊にくれた20世紀はもう終わったのだが、これからどういう世界を望むのか、戦争と破壊を望むのか、平和と繁栄を望むのか。軍拡を競う時ではないと思う。

Q:核兵器の恐ろしさに議論が集中するようだが...？

A:核兵器の威力に関心が集中しているようにみえるのは残念だ。核兵器は自分を含めた人類全滅の恐れを持っているし、誰も、どの国も発射ボタンを押さないだろう。そうすると、核自体よりもそれを管理する人間のほうに問題がありそうだ。

Q:人間同士ならば話し合いができる...？

A:世界の関心は核兵器の問題に集中しているが、最も大事なことは人間同士話し合いができるということではないか。核兵器の有無やその威力に関係なしに、宇宙からの攻撃を防ぐための「宇宙時代にふさわしいルール創りのための話し合い」から始めることが必要だろう。経済的には、一国だけの繁栄は難しい「グローバル化」がよく知られているが、安全保障の面でも一国だけの安全・安心は望めない「宇宙化時代」になってきたともいえる。そのへんのところを「地球第一主義」の政治家におまかせしたい、と思っている。

### 第3章 死の文明から生の文明へ

---

Q:北朝鮮は同じ民族の韓国の大統領とも会っている。韓国と元のさやに納まりたいのか、それも不明だ...？

A:私の推察に過ぎないが、現体制が維持できればどちらでもいいのではないか。南北に分かれたまま、アメリカをはじめとした国際社会の「北朝鮮の独立と現在の政治体制が長く認められればいい」と思っているようだが、南朝鮮・韓国の大統領が統一と言っているのもそれに乗ったまでと思う。

北朝鮮はこれまでの核兵器の研究・開発により、①大気圏に再突入の際ものすごい高温に見舞われ、核弾頭がもたないことを技術的に解決したと言っている。②大陸間弾道ミサイルの技術により、アメリカ本土への攻撃も距離的に可能になった。③この両技術により、小国が大国に戦争で勝つことが可能になった、としているが、アメリカと国際社会は疑問視している。6月の両首脳の間談により明確になるだろうか...？

それは分からない。しかし、北朝鮮は現体制の維持だけが目的のようだから、どれだけの譲歩を引き出せるかどうかにかかっていると思う。首脳会談そのものを開催するかどうかについて、最後の最後までもめるだろうが、首脳会談そのものを開催しないことは国際社会が許さない。この機会を逃したら話し合いムードはなくなってしまうから、両者ともそんなことはできないし首脳会談は必ず開催されると思う。

人類はこれまで数千年の間、他から攻められて滅ぶよりは、他を攻めて他を殺す「死の文明」を追求してきたが、そろそろ軍拡競争は止めて、つまり「死の文明」の追求は止めて、話し合いで全て決める「生の文明」の追求の時代に入ったことに気付く時期だ、と思う。殺し合いの最大の武器である核兵器が人類どころか全生物を皆殺しにするほど保有し、すでに十分に拡散しているのだから、この辺が「生の文明」への切り替えの時期だ、と思っている人が多くなった。

私の子供の頃のように、食糧難では希望は持てない。「子供の衣食住と基礎教育」はおとなの責任だと今でも思っているが、子供の衣食住が不自由なのに、おとなが戦争ごっこに明け暮れると言うのは許せないと思う。それだけの国力をなぜ「子供の衣食住と基礎教育」に集中しないのか？

子供はどこに生まれるかを選べない。北朝鮮の子供でも、日本の子供でも同じである。私は食糧を援助してくれただけで感謝した経験がある。育ち盛りに食糧が足りないのは酷である。「子供の衣食住と基礎教育」はやはりおとなの責任である。

「子供の衣食住と基礎教育」はおとなの生きる最低の条件である。人間としての生き

る最低の条件ともいえる。戦争をやる前に、衣食住と基礎教育を人間らしく生きる、最低の条件を満たすものとしてからにしてもらいたい。衣食住と基礎教育は年々良くなっていくのが当然である。それが「人類の進歩」と言えるのではないか。

これからは「生の文明」を追求しよう。暮らしがどれだけよくなったかが物差しである。もう人殺しは嫌だ。「死の文明の追求」から『生の文明の追求』へと180度変更する時期が来た、と感じる人が地球上に増えてきた。この傾向に気付く人はどんどん増えてきている。

Q:どんな人が気付いているのか？

A: 貧しい人ほど、格差の被害にあっている人ほど気づいているようだ。これらの人々が先に気付いて行動を起こすことになりそうだ。

Q: 気付いていないのは政治家ということになるのか？

A: お客さんが沢山お金を持つようにすれば、自然とお金を使うようになり、景気は良くなることになる。自分たちだけ税金逃れをしようとするパナマ文書のようなものが出回っているのは問題である。自分たちだけ税金逃れを考えれば、経済格差は広がり、貧しい人が増える。貧しくてお金を使いたくても使えないとなれば、景気は悪くなる一方だ。パナマ文書に乗るほど裕福な人は「生の文明の追求」に世の中変わっていても気づかない。その中に政治家もいるということだろう。

Q: そういう政治家はどうしたらいい？

A: 次の選挙で落とせばいいだけだ。そういう政党も同じだ。企業経営者はコストに敏感である。赤字が続けば企業は持たなくなるのだから当然である。人件費はコストの中でもっとも高いので、人を安く使える方に行きがちであるが、人を使う以上、人並みの生活ができるように考えなければならないのが経営者の辛いところだ。まともな生活ができるくらいは払わなければならない。「子供の衣食住と基礎教育」はおとなの責任である。地球上のどの国で生まれようと、未来に希望を持って楽しく生きることが大切である。生物はそういうものだ、と思う。いまの人間社会でも同じではないか？

何が何でも生き抜くのが全ての生物に課せられた運命と思う。生き抜くためにやむをえず暴力（軍事力）を使ってきたが、核兵器に至って「人類全滅」の危険が身近なもの

して、どこの国のあらゆる人達にとって感じられるようになってきた。

今はチャンスである。すべての生物と同様、人間という種も生き抜くために気づかねばならない。「生き抜くために核兵器がある」と言うのは詭弁である。これからは「生の文明の追求」を始めなければならない。

Q:39歳で大統領になったフランスのマクロン氏が「徴兵制度の復活」を大統領選挙の公約にしていたことが分かり問題となっているが・・・？

A：徴兵制の中身とかつて徴兵制度があったかどうか、それに対する国民の感じ方が問題だと思う。日本の様に70年も徴兵制がなければ、徴兵制の中身や期間はともかく、徴兵制そのものが「死の文明」となるだろうが、陸続きで強力な国があるヨーロッパでは、感じ方が違うのかもしれない。マクロン氏が平和主義者であることはヨーロッパではよく知られたことである。もうしばらく様子を見たい。

Q:米朝首脳会談に望むことは...？

A:話し合いを続けてもらいたい、話し合いのムードを壊さないでもらいたい。功を急がずに、これからは核の力ではなく、すべてを話し合いで進めてもらいたい。核兵器の有無や質量に関係なく、すべてを話し合いで決めることを国際ルールにしてもらいたい。今回の米朝首脳会談で望むことはそれだけだ。北朝鮮の核の保有問題だけが注目されているが、宇宙時代に耐えられる国際ルールを創る話し合いの場につなげられれば大成功と思う。21世紀はそれから始まる。

Q：宇宙時代に宇宙から攻撃を受けないためのルール創りのための話し合いが必要とのことだが...？

A：誰でも頭の上を爆弾がとおっていると聞けば気持ち悪いが、現在は頭上何キロまでは領空、それ以外は公空と決められていないから、天気予報やカーナビでお世話になっている人工衛星が飛び交っている、と聞いている。そういう状態をなくすには、早急な話し合いが必要と思う。技術的に解決すれば、宇宙からの攻撃もできる、今の状態は良くないと思う。

Q：「地球第一」という政治家は現れないかな...？



A:それを育成するのが我々の役割だといえよう。

6月12日シンガポールで、初の米朝首脳会談が行われると発表された。その後北朝鮮側から、核開発問題に絞られ過ぎる、と苦情があり、開催そのものが危うくなったとの観察も生まれた。私は、首脳会談そのものは開催されると思っている。「核開発問題にしぼられすぎる」と双方に負担がかかりすぎるとしている。会談の成果は「北朝鮮の核開発問題」にかぎらず、会談の継続が確認できれば成功と思っている。

さて首脳会談はどうなるのか、首脳たちの判断が問われることになりそうだ。会談後に私の原稿も続けたいと思う。

\*\*\*\*\*

その他の無料公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一12～宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合一11～再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合一10～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一9～核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合一8～今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合一7～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合一6～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一3～若連が世界を変える](#)

若者国際連合一2～若連が動き始めた

若者国際連合一1

若者が目覚めた

みんな目覚めた

みんな生きる

テロをなくす

戦争は怖い！